

| | |
|--------|-----|
| 都道府県番号 | 13 |
| 都道府県名 | 東京都 |

()

・学校名及び規模

| | | | | | |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 私立聖徳学園中学校 | | | | | |
| | 1年 | 2年 | 3年 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 5 | 4 | 4 | 13 | 31 |
| 生徒数 | 170 | 141 | 136 | 447 | |

・実践研究の概要

| |
|--|
| <p>・主題(テーマ) 「確かな学力」形成のための主体的な問題解決能力の育成並びに生徒の到達度に応じた教材開発 自ら学び・考え・表現して問題解決をはかる生徒の育成</p> <p>・テーマ設定の趣旨 「知能構造診断」の結果の分析や活用により、GP (Guilford Practical Education) の授業を通じて形成される能力を高める。 習熟の程度に個に応じたきめ細かい教材や指導により、基礎的基本的学習成果の定着を図る。</p> |
|--|

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

企画委員会と別に「チューター制度運営委員会」を設置し、指導と評価の改善を総合的に研究していく。研究の具体的な推進は、研究対象となるGP(本校における「総合的な学習の時間」、国語、数学、英語の各教科の研修部会)が中心となって進める。

() 実践研究の内容

中学1年・2年GP[Guilford Practical Education]

アメリカの心理学者ギルフォード博士の知能構造理論に基づき、ギルフォード教育研究所などの指導助言を仰ぎながら知的能力全般を生徒の精神的な発展段階に応じて刺激することにより、物事を多角的に総合的に考える力を育成している。

中学1・2年数学

生徒の理解度に差が出やすい教科であり、また、小学校での学習の定着度に大きな差が生じている。このため、学年同時展開による習熟度別授業を展開し、学習内容の定着を図っている。

中学1・2年英語

生徒の理解度に差が出やすい教科である。学年同時展開による習熟度別授業とネイティブの教員により中学3年まで週1時間の「国際言語」の授業を展開している。国際理解教育(研修旅行や留学)を推進し、英語能力の高い生徒を対象に能力開発プロジェクトも実施している。

中学1・2年国語

週2単位の「鑑賞創作」という科目を設け、生徒の興味や関心をさらに引き出し高められるよう、古典の素読や作文指導の充実につとめている。

() 成果と課題

成果

総合的な学習の時間

- ・ 本校独自の教材として言語・概念の領域を刺激するための独自テキストを作成。
「GUILFORD PRACTICAL EDUCATION - SEMANTIC」(平成 14 年 11 月刊行)
- ・ 「学習構造診断」をギルフォード教育研究所の協力を得て実施。

数学科

- ・ 中学において 1 学年同時展開の習熟度別学習を実施。
- ・ 発展的な学習のための独自教材を作成。(11 月 刊行)
- ・ 生徒による自己評価書を作成。
同一範囲の前期末考査において、昨年の平均点 58.2 点から 64.8 点に上昇。
同一範囲の後期中間考査において、昨年の平均点 57.9 点から 65.8 点に上昇。

英語科

- ・ 週 1 単位の「国際言語」という授業で、日本人とネイティブ教員による T T を実施。
- ・ 週 5 単位の「英語」の習熟度別授業の中 1 の一番上級クラスをネイティブ教員が担当し、英語検定に代わって T O E F L などにも挑戦。(中 1 生徒 6 0 0 以上が参加)
- ・ 他の英語授業でも、週 1 回ネイティブの教員が日本人教員とともに T T を実施。
- ・ 夏休みに中学 1・2 年の希望者対象にネイティブ教員と過ごし、英語だけで生活をする English Shower Camp を実施。
- ・ 学年末には英語暗唱大会、英語スピーチコンテストを実施。
- ・ 英語検定等において上位の成績をとる者が増加。
- ・ English in Action(文部科学省後援)のデモ・レッスンへの参加。

国語科

- ・ 週 2 単位の「鑑賞創作」の時間を設けて、2 名の教員による T T を実施。
- ・ 古典の素読や作文の添削などを実施。
- ・ 百人一首の学習に取り組み、百人一首大会を開催。

その他

- ・ 本校の卒業生をチューターとして呼び、英語・数学において土曜日の補習的な授業を実施。
午前中は、成績不振の子の問題演習をサポート。午後は生徒たちの質問教室を実施。
- ・ 中学生対象ではないが、中高一貫の高校 1 年生を対象に知的な好奇心を刺激するための「リベラルアート・アカデミー」と称する課外の講座を試行として開設。

課題

- ・ 「知能構造診断」のデータを蓄積し、有効にデータベースの活用を図る。
- ・ G P との相関分析を始めるにあたり、測定や評価の方法について十分な準備をする。
- ・ 授業研修や公開授業を通し、習熟度別授業や個別指導の実践を更に深める。
- ・ 独自に開発した教材の有効な活用を図り、学習効果の向上を図る。

() 成果の普及方策

(1) 地区協議会の実施

第1回 地区協議会(2月21日[金])

(2) 公開授業の実施

第1回 公開授業(4月27日[土]) 本校において

第2回 公開授業(6月22日[土]) 本校において

第3回 公開授業(10月26日[土]) 本校において

第4回 公開授業(11月16日[土]) 本校において

第5回 公開授業(2月21日[金]) 本校において(予定)

(3) 校内授業研修の実施

第1回 3年・古典(5月15日[水])本校において

第2回 1年・数学(5月23日[木])本校において

第3回 3年・公民(6月12日[水])本校において

第4回 2年・英語(6月19日[水])本校において

第5回 1年・理科(7月3日[水])本校において

() その他、特色ある取組

学力把握のための取組について、次のような取組を実施した。

(1) GPIに関する「学習構造診断」の実施

ギルフォード教育研究所の協力により、「学習構造診断」を実施。

中2・中3については9月。中1については4月に実施。

(2) 校内学力試験の実施

8月下旬と11月上旬の2回本校教員の作問による校内学力考査を国語・数学・英語・社会・理科の5教科で実施した。

各担当者が講評を書き分析を行った。

(3) 外部の模擬試験の実施

外部との比較で客観性を出すため、2月6日に中1・中2については進研の模擬試験を国語・数学・英語・社会・理科の5教科で実施した。

中3については、高校課程の内容についても学習をしているため、河合塾主催の全統高1模擬試験を受験させた。

試験の実施直後であり、結果がまだ出ていない。

(4) 各種検定試験の実施

英語検定 6月と10月と1月の年3回、本校を準会場として実施。

TOEFL 英語能力の高いものを対象に11月にTOEFL - ITP(LEVEL 1)を実施。

国際教育交換協議会日本代表部からも運営の助言指導を受ける。

漢字検定 10月と2月の年2回 本校を準会場として実施。